

ワケ カタチには理由がある(GG)

Shape follows Function & Taste

～スピットファイア(Spitfire)Mk.IXe



(Fw190A と↓)

マーリンエンジン型スピットファイアの集大成、Mk.IXe(9e)です。米国のP-51B/Dのパックードマーリンのオリジナル、マーリン61型エンジンを搭載したタイプです。エンジンが二段過給機付きに変更されたことに伴って、スピナが尖るとともに機首が長くなり、機首下の過給機用インレットが大型化されているため、過去、英国空軍の主役だった団子鼻のMk.IやMk.V(5)に比べ、大人びたスピットファイアという印象となります。英国空軍としては、この機体を得たことで、ようやくドイツのFw190Aに対して優位に立つことができました。ちょうど大陸反攻作戦のD-DAY前に主力となっていた機種のため、インベイジョンストライプを塗装された機体が多い印象で、模型的にはこのマーキングが華となります。なお、この後、スピットファイアは、エンジンがグリフォンエンジンに換装されてMk.XIV(14)となり、さらに進化していきます。



【模型について】

チェコのエデュアルド(Eduard)の1/72のインジェクションキットです。Mk.IXは、過去、マッチボックス、AZモデルズ、KP等とありましたが、このキットが最新です。脚やタイヤホイールなど多様な種類が準備されており、コクピット内の再現などとても精密感があって、パーツ状態だと楽しいキットなのですが、組むと私が持っているMk.IXのイメージと違って少しマッチョに感じます(スマートなハセガワのスピットファイアが日本ではスタンダードになっているせいかもしれませんが)。

(中川裕幸 2024年3月)